

アジア・アフリカ会議(バンドン会議)60周年記念首脳会議 における支援策

これまでの日本の取組

日本は過去60年にわたり、アジア・アフリカ地域の経済成長のため、3,000億ドルのODAを通じた日本らしい支援を実施。

- TICADVでは、5年間でODA約1.4兆円を含む最大3.2兆円(320億ドル)の官民の取組による支援、日ASEAN特別首脳会議では、「連結性の強化」「格差是正」を柱に5年間で2兆円規模のODAによる支援を表明し、着実に実施。
- 「連結性の強化」については、ASEANの東西・南部経済回廊、海洋経済回廊の整備を始めとする連結性強化に8,000億円規模、南アジアにおける連結性強化に8,000億円規模、アフリカ五大回廊構想に2,000億円規模の支援を実施中。
- また、アジア・アフリカ諸国が自ら主導しつつ地域開発を進める上で最も重要なのは、「質の高い成長」を支える優秀な人材。とりわけ、産業人材の育成が必要。日本はこれまでに14万人もの専門家をアジア・アフリカ諸国に派遣するなど人材育成に豊富な経験。
- 日本は官民連携による質の高いインフラ投資を促進するとともに、産業人材育成を含む人づくり支援を推進。人づくりのための南南協力にも知見を共有。

日本の支援策

- ◆ TICADV, 日ASEAN特別首脳会議等で表明した支援の加速化。
- ◆ この地域の「質の高い成長」と貧困撲滅のため、とりわけ日本が得意とする人づくりを中心に地域の開発に貢献。「5年間で35万人に対する人材育成支援の実施」を表明。
- ◆ 次回TICADのアフリカ開催(2016年)
- ◆ 南南協力／三角協力の推進

支援策の内容

「質の高い成長」と貧困撲滅のため、以下を推進。

◆ 連結性の強化を含む地域の開発への貢献

✓ 官民連携を通じた質の高いインフラ投資の促進

PPP等を通じた効果的な資金動員，案件形成能力向上支援や産業政策対話等を通じた対話と計画の尊重，経済界との連携による広域インフラ開発，開発金融機関（世銀・ADB等）・国連機関等開発パートナーとの連携，環境社会配慮，ライフサイクルコスト低減等の「インフラの質」の確保，現地への裨益の重視（人材育成を通じた技術移転の促進，雇用の創出等）

✓ 産業育成への協力

産業政策立案支援，「カイゼン」・「生産性運動」の普及推進，農業・漁業協力の推進

✓ 貧困撲滅と持続可能な開発（ミレニアム開発目標とポスト2015年開発アジェンダ）への貢献

基礎教育の拡充，UHCに基づく保健・医療の充実（特に母子保健と感染症対策），女性の活躍推進（女子教育支援等），防災・復興支援，島嶼国の脆弱性への配慮

✓ 国・地域を繋ぐ陸運及び海洋の連結性強化

経済回廊構想の推進： 鉄道・道路・橋梁・拠点港湾等の整備，税関手続等制度の整備，連結性強化を支える人材の育成，シーレーンの安全確保（巡視艇や機材の供与，海上保安機関の人材育成）

国境を越える問題への対処：テロ対策（人材育成を通じた，活力に満ち安定した社会の実現），感染症危機対応能力強化，災害対応（AHAセンターの経験の共有），女性の保護

◆ 人づくり支援

✓ 産業人材育成の推進

ABEイニシアティブの推進，工科系大学等高等教育機関の整備（インド工科大学ハイデラバード校，エジプト日本科学技術大学，マレーシア日本国際工科院），日本の大学・企業とのネットワーク形成（SEED-Net等），高専制度の普及

✓ 南南協力／三角協力の推進

きれいな病院プログラムの推進，インドネシア・シンガポール・マレーシアとの三角協力